

中部地域におけるフィリピン超大型台風被害救援活動 (2013年11月27日現在)

名古屋NGOセンター

名古屋に事務所を置いているNGOがこのような救援活動を展開していることで、中部圏の多くの方々が、「自分たちの町で、このような大きな災害に対して活動している団体があることに勇気づけられ、自分たちもなんとかしなければ」と思って支援活動に参加してくれている。個人、学校、企業から温かいお言葉や寄付をいただいている。地方のNGOが専門性を活かして、こうやって活動することで、地方において市民社会がつくられており、日本全体の市民社会の構築に貢献していることに思いを新たにすると、救援活動するNGO職員から率直な気持ちが寄せられている。

★認定NPO法人アジア日本相互交流センター・ICAN <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

フィリピンで20年間活動し、拠点が6ヶ所あるからこそ、災害発生翌日から活動を開始し、タクロバンから南部の地域において、フィリピン国内外のNGOで一番早く救援物資提供を開始できた。活動地選定理由は、これまでの経験により、どこから多くのNGOが入り、どこで活動が集中し、どこが取り残される可能性があるのかを事前に知っていたため。

災害が発生すると、多くの団体が、世界中から駆け付けるが、やはり、もともと現地で活動している団体が、活動することが効率的。フィリピン政府への要望として、多くの住民がair dropを止めてほしいと言っており、働きかけを行った。日本政府とも、N連等を通じて培った普段の大使館との良好な関係が今回も活かされて、十分な連携が取れている。

★認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構 www.hope.or.jp (JPFのNGOユニット加盟団体)

台風直後週明けの11月11日に代表が現地入り、パートナー(Assisi Development Foundation)と調査し、セブ島北末端、レイテ島 Javier 市および周辺で食糧と緊急物資配付、食糧安定のための種支給や住居、生計復興支援を実施予定(半年~2年)。現地の状況は刻々と変化しているため、情報共有とそれに伴う予定変更ができるような体制作りが大切だと思っている。

★公益財団法人アジア保健研修所 <http://www.ahi-japan.jp/>

現地パートナー(Davao Medical School Foundation)が社会福祉省のダバオ出先機関と連携してレイテ島の自治体を通して医療チームを派遣するのを支援。ここにインドネシアのパートナー(2004年津波救援で力をつけたYAKKUM Emergency Unit)が合流して医療支援を行っている。

★特定非営利活動法人イカオ・アコ <http://negros.blog48.fc2.com/>

ネグロス島北部にある研修センターが被災。数日間その修復に取り掛かって後、バンタヤン島の支援を開始。中長期的な視点で学校の再開、コミュニティの復興を目標とする。

★公益財団法人オイスカ中部日本研修センター <http://oisca-chuubu.org/>

ネグロス島にあるセンターの施設が台風襲来の夜は避難所に。山間地で土砂崩れ、家屋が倒壊。パナイ島での植林事業の9割以上が被害に遭う。活動地での救援復興活動を開始。

★社団法人日本国際飢餓対策機構 <http://www.jifh.org> (詳細は関西NGO協議会資料参照)

★国内の多文化共生分野で活動する加盟団体は、故郷が被災した在日フィリピン人を中心に、現地NGOと連携して、中部の各地でチャリティコンサートや街頭募金活動を展開。

★名古屋NGOセンターは、「中部おうえん募金」で支援 <http://www.nangoc.org/ouen/>